未来館 news

VOL.93
福島県男女共生センター広報誌
2026 spring

特集

センターでは、こんな事業をやっています！「次世代スクールプロジェクト」

「次世代スクールプロジェクト」

福島県男女共生センターでは、福島県から委託を受け、若い世代に互いの性と人権を尊重する大切さや自分らしく生きることを考えるため「次世代スクールプロジェクト」を実施しています。

これまで延べ206校・団体、約19,800名に出前講座を実施しました。

こちらの事業は、県から派遣されている教員が担当しています。令和４年度から担当しているセンター事業課所属の津田理恵副主査より、その概要をご紹介します！

福島県男女共生センター事業課
津田 理恵 副主査
RIE TSUDA

対象

福島県内の小・中学校又は、これに準ずる学校、高等学校、特別支援学校、専門学校、短期大学、大学等の児童・生徒・学生及び学校教育関係者、教育委員会関係者、そのほか教育関係団体

テーマ

男女共同参画、性別にとらわれない職業選択、性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）、デートDV、ハラスメント、多様な性、違いを認め合う、ライフデザイン(外部講師が担当)など。

複数のテーマの組み合わせや関連するその他のテーマでの実施など、学校の実態や先生方の思いにできるだけ対応します。

費用

無料（実施校における講師料や旅費の負担なし）

実際の授業の内容について

どのテーマでも、最初の導入に使うのはこちらのスライドです。

みなさんは悩める看護師さんにどんなアドバイスをするでしょうか。

二人でよく話し合う?、曜日ごとの分担制にする?

どの学校でもいいアドバイスが出てくるのですが、このスライドの真意はアドバイスの内容ではありません。

あなたは「私」や「パートナー」をどんな人を想像しましたか?

多くの方は看護師を女性、トラック運転手を男性だとして、アドバイスを考えたと思います。しかし、お悩みの文章を読むと、性別を限定するような言葉、例えば「夫」や「妻」といった言葉は使われていません。

私たちはなぜ看護師を女性、トラック運転手を男性だと思ってしまうのか。それは固定的性別役割分担意識というものが影響しています。「女性向きの仕事、男性向きの仕事がある」、「家事や育児をメインに担うのは女性で、力仕事をするのは男性だ」このようにその人個人を見ずに、性別によって役割を分担し、さらには固定化してしまう考え方を固定的性別役割分担意識といい、この考え方がジェンダー平等を推進する大きな弊害になっていると言われています。

こんな自分でも気づいていない無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）をきっかけとして、ジェンダーから「普通」や「当たり前」を見直す授業を展開しています。

授業を行う時に心がけていること

《データと個人の体験のバランス》

基本的には国や県の統計データをベースにお話しすることを心がけています。なぜジェンダー平等が社会で必要なのか、普段の学校生活では性差別を意識することの少ない児童・生徒に、客観的なデータで卒業後の社会の現状を伝えることは大切だと考えています。

そのうえで、実は身近に性差別の芽があること（固定的性別役割分担意識など）を、私自身の個人の体験を織り交ぜることで、児童・生徒のみなさんにはより実感を伴ってお話を聞いてもらえているように思います。

《情報のアップデートを怠らないこと》

選択的夫婦別姓や同性婚の実現に向けた議論、ヤングケアラーやデートDVへの対策など、ジェンダー平等を目指すために行政や民間などで様々な取り組みがあります。幸い、こちらの職場ではその情報を追うことのできる環境にあるので、新しい法令等が作られる、またはその予定があるという情報が得られた場合は、それらに対応した資料づくりを意識しています。これは日々の学校業務に携わりながらでは難しいと思いますので、ジェンダー平等に関する学びを実施したいけれど、その時間的余裕がないとジレンマを抱えている現場の先生方のお役に立つことができているのではないかと思っています。

《次の社会をつくるのは子どもたち》

学校では性差別は少ないけれど、社会で大きくなるのはなぜなのか。日本の現状として、ジェンダーを内面化し、それを当たり前だと思う人が圧倒的多数であるからではないでしょうか。次世代が生きる社会では、ジェンダーにとらわれず、自分らしく生きたいという価値観を持つ人が増えるとともに、他者の生き方を尊重することが当たり前になったらいいなと思いながらお話しています。そのため、授業のまとめでは、「皆さんも一緒にそんな社会をつくりましょう!」と呼びかけて、児童・生徒のみなさん一人ひとりが次世代の社会の構成員であるということを伝えて、少し責任感を持てるようなまとめとしています。

授業の感想 ※性別は性自認をお聞きしています。

- 男と女で仕事が決まっていると思っていたけど、自分の好きな仕事ができると初めてわかりました。(「性別にとらわれない職業選択」・小学生・男性)
- 今まで、ゲイの人を見た時は変な人だなと思っていたけれど、今まで心の中で笑っていた自分がとても恥ずかしく感じました。(「多様な性」・小学生・女性)
- 性別がわからない(決められない)のは悪いことではないことを知れて安心しました。(「多様な性」・中学生・答えたくない)
- DVとは、殴る蹴るの暴行しかないと思っていて、喧嘩との区別が曖昧だったけど、力の差の有無や、支配の意思の有無で区別できるのが驚きました。(「デートDV」・中学生・その他)
- それぞれのハラスメントの恐ろしさを知りました。ハラスメントを自分がする側にならないように注意したいです。(「ハラスメント」・高校生・男性)
- 女子は女子らしくや男子は男子らしくなどにとらわれずに、自分を認めてありのままの自分でいることが大切だと感じました。(「男女共同参画」・高校生・女性)
- 本人のカミングアウトなく、またいろいろな物事に関する申請なくして、社会がスムーズに動いていくのが本来の社会のありようだと感じました。(「多様な性」・教職員・女性)

次世代スクールプロジェクトを活用したい方、申込・問合せについて

福島県男女共生センター事業課　電話0243-23-8304　詳しくはこちらから→

おすすめBooKS センター図書室のおすすめ本

1 『基礎ゼミ ジェンダー スタディーズ』

守如子/編　前川直哉/編　世界思想社　2025年

女性はメイクをすべき?スポーツは男性の方が向いてる?思い込みを解き放つワザをぎゅっと詰め込んだ入門書。

2 『みんな自分らしくいるためのはじめてのLGBT』

遠藤まめた/著　筑摩書房　2021年

恋愛は「異性を好きになる」ばかりじゃない。性の多様性について考えれば「当たり前」から自由になれる!

問い合わせ　福島県男女共生センター図書室 ☎0243-23-8308

開館時間　9時～20時(休館日前日は17時まで)

Quiz ふくしまジェンダークイズ

Q.「この数字はなぁに?」　1 全国平均24.9%　2 福島県13.5%

※広報誌内に答えがあります!

みんなのふくしま ～福島県内の男女共同参画の取組紹介～

特定非営利活動法人 Solaris

子どもたちのプログラミングを学ぶ場の提供、ゆるゆるプログラミング部という女性限定のプログラミングの勉強会を運営している特定非営利活動法人Solarisについてご紹介します。

ご紹介くださった方:特定非営利活動法人 Solaris 代表 千葉 明恵さん

“女性が安心して学べる居場所を地域に ― ゆるゆるプログラミング部の挑戦”

特定非営利活動法人 Solarisでは、「学びたい」という気持ちを大切にしながら、プログラミングに触れられる場づくりを行っています。主な活動として、子ども向けのプログラミング道場である「CoderDojo Aizu」「CoderDojo Bandai」を運営し、子どもたちが安心して学び、挑戦できる機会を提供しています。また、私自身が主催する「ゆるゆるプログラミング部」では、高校生以上の女性を対象に、継続して参加できる学びの場を設けています。

CoderDojo、ゆるゆるプログラミング部はいずれも、プログラミングを理解しているメンターが在籍しており、本格的に学びたい方にも、少し体験してみたい方にも対応できる環境です。特にゆるゆるプログラミング部では、初心者の方が安心して参加できる雰囲気づくりを大切にしています。主催者である私やメンターは着物で参加しており、非日常を楽しんだり、着物を着て外出するきっかけとしても利用していただいています。

学びの内容は一律ではなく、参加者一人ひとりの「やってみたい」を尊重しています。基本的には、参加者自身が取り組みたいことに対して、私たちメンターが伴走する形で支援しています。

私は過去にプログラミングを学んだ経験がありますが、理解し、コードを書けるようになるまでには至りませんでした。それでも学びたい気持ちがあり、大人の女性が気軽に学べる場所が少ない現状から、自ら学びの場を作ろうと考えました。また、社会や家庭の中で女性の立場が弱くなりがちな場面を目にしてきた経験から、女性の自尊心を守るためにも学ぶことは重要だと感じています。男性が多い場では参加しにくい、教えられる側に固定されてしまうといった声を受け、女性限定の場としています。

月に一度の活動で高度な技術習得は難しいかもしれません。しかし、地域で定期的に集い、交流することで、学び直しのきっかけや居場所となり、新たな一歩を踏み出す力になると考えています。私は今、この文章をChatGPTを使って書いています。技術は社会をより良くします。楽しみながら学び、共に活動する仲間が増えることを願っています。

お問合せ先

〒965-0828 福島県会津若松市門田町大字面川字花坂316番地の2
Mail: info@npo-solaris.or.jp

特定非営利活動法人Solarisホームページはこちら→

未来館 NEWS
リクエスト
コーナー

みなさまの『知りたい！』にお答えします

未来館NEWSでは、ご意見・ご感想、取り上げてほしいテーマをお寄せいただくためのアンケートを実施しています。

前号に引き続き、「有害な男らしさ」について、福島大学教育推進機構 高等教育企画室 准教授 前川 直哉さんに伺いました。

ダイバーシティ？
ハラスメント？
ジェンダー？
自分らしさ？
男女共同参画？
LGBTQ？
ルッキズム？
SOGI？

1 ホモソーシャルとオールドボーイズネットワーク

ホモソーシャルというのは、ホモセクシュアルからの造語です。ここでの「ホモ」は「同じ、同性」という意味で、ホモセクシュアルは「同性愛」と訳されるわけですが、ホモソーシャルは同性同士、特に、男性同士の社会的な強い結びつきを言います。

ホモソーシャルは形容詞ですので、「ホモソーシャルな絆」、「ホモソーシャルな欲望」という形で使います。名詞形で使う場合、正しくはホモソーシャリティとなりますが、日本ではわりと自由に使われています。

どちらかと言うと、オールドボーイズネットワークに似た意味で使われることが日本では多いかもしれません。

オールドボーイズネットワークとは、男性中心の人間関係や暗黙のルールなどの組織文化を指します。まるで社会全体が男子校であるかのように、男性だけで社会の中心を担おうとする男性同士のネットワークです。そこから排除されるのは、一つは女性、もう一つは同性愛者、特にゲイ男性です。

男性だけで社会を独占しようとする背景には、「女性は家事育児、男は仕事」という近代的な性別役割分業観があります。そこで女性は、家の担い手、恋愛、結婚、性愛の対象でしかない。つまりオールドボーイズネットワークの男性達にとっては、女性は共に社会を担う一員とは見なされていないわけです。これがミソジニー（女性蔑視）ということになります。

また、男性同士で社会を強く結びつける男の絆があるわけですが、同性愛ではないということを示さないと、その結びつきが崩れてしまいます。

プライベートな恋愛、性愛に関する「好き」ではなく、仕事や社会を担う大切な存在同士としての絆であり、同性愛とは別物であると示さないといけないので、ゲイ男性やいわゆる女性的と言われる男性は排除されるわけです。これがホモフォビア（同性愛嫌悪）です。ミソジニーとホモフォビアがホモソーシャルな欲望の重要な特徴であると、アメリカの研究者セジウィックが指摘し、その後の研究に大きな影響を与えました。

今の日本では、こうした研究上の使われ方とは別に、軽く「ホモソ」と省略した形で使われることもあります。この使い方に問題があるということではないのですが、「男性中心社会」、「おじさん社会」と言い換えられる場合も多いように感じます。本来、ホモソーシャルという言葉が生まれた経緯には、やや複雑な事情があります。使われ方によってだいぶ意味が揺れる言葉であり、簡単なようで難しい言葉です。

2 私たちができること、よりよい未来にするために

ジェンダーにおいて変わらなければいけないのは、男性側、マジョリティ側です。

これは性的マイノリティについても言えるのですが、性的マイノリティ当事者が変わる必要はなく、マジョリティの側、つまり周囲や社会の制度、法律、認識が変わらなければいけません。

男性性が持つ有害な部分や、性別役割分業、ジェンダー規範である男らしさ、女らしさについても、まずはマジョリティであり力を持っている男性側が変わっていくことが必要です。

一番に、男性性の中で特に有害なもの、周りに害を与えるものは、どんどんなくしていく。

男女を問わず暴力はあってはいけないことですし、それが男らしさとみなされてはいけないことです。

そして有害なものを取り除くことと同時に、性別ごとのジェンダー規範が弱まっていくことが大切だと、私は考えています。性別で人を判断したり、「女性、男性はこうである」という決めつけを、メディア、学校、家庭等、いろんな場面でなくしていかなければなりません。

例えば、先生が机を運びたいときに「おーい、男子来て」と声を掛ける場面が多く見られます。それは「男性は力持ち」というジェンダー規範に基づいているからです。ジェンダー規範を弱めるためには、「男子来て」ではなく「机を運ぶから誰か手伝って」でいいわけです。

褒めているようでジェンダー規範を強めている場合もあります。

例えば、「女子はノートがきれいだね」とか、「女子力あるね」という言い方。これらはいずれも褒めているようで、性別の規範に押し込めてしまっています。褒めたいのなら性別を絡める必要はなく、単に「ノートがきれいだね」とか「生活力があるね」で良いはずです。

ジェンダー規範は、私達のちょっとした言動に潜んでいるからこそ、意識して変えていくことが大切です。

最近は家事育児に参加する男性が増えてきて、とても良いことですが、やたら褒められているなと感じることもあります。例えばお父さんが「娘の弁当作りました」とSNSに掲載すると、「いいね」がたくさんつきますが、お母さんが掲載した場合、そこまでいかないのではないでしょうか。たぶん、そもそもSNSにアップしない人が多い気もします。父親を褒めるのなら、同様に母親も褒めるべきですよね。

日本の社会構造全体が性別役割分業から、新性別役割分業に変わったと言われています。「男は仕事、女は家庭」だったのが、「男は仕事、女は仕事と家庭」となりました。これでは、全然分業になっていません。この不平等を改善するには男性の家事育児参加がポイントとなりますので、そういったところから「男らしさ」について考えてみてはどうでしょう。

ジェンダー規範によって、しんどい思いをする女性も、男性もいます。性別にとらわれない生き方をすることで、みんなが生きやすくなるというジェンダーの考え方を大人が理解し、実践していくと、次世代にちょっと良い社会を残せるのではないかと思っています。

teller 前川 直哉さん

福島大学教育推進機構高等教育企画室准教授。1977年生まれ。兵庫県尼崎市出身。99年東京大学教育学部卒業。2012年京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程単位取得退学。博士（人間・環境学）。
灘中学校・高校教諭を経て14年に福島に転居し、一般社団法人「ふくしま学びのネットワーク」を設立して理事・事務局長に。18年4月からは福島大学特任准教授、22年4月から現職。ジェンダー、社会学、教育学を研究。
最近の共編著に『基礎ゼミジェンダースタディーズ』（世界思想社）。

Naoya Maekawa

センターからのお知らせ

Information from MIRAIKAN

1 講師をお探しの市町村や企業・団体等の方へ「研修講師派遣事業」

男女共同参画に関する研修会等に講師を派遣します。

福島県男女共生センターでは、県内の市町村や企業・団体等が実施する男女共同参画に関する研修会やセミナー等に講師を派遣するほか、外部講師の情報提供等を行っています。

【対象】

男女共同参画に関する学習会や講演会等を実施する県内の市町村や企業・団体等

【テーマ】

- 男女共同参画
- 女性活躍
- DV
- ジェンダーに関するハラスメント
- LGBTQ理解
- 防災・復興と男女共同参画　など

※詳細はセンターまでお問い合わせください。

研修講師派遣事業

2 働きやすく、業績も上がる職場づくりを実現しませんか?「イクボス講座実践編」

職場にイクボス式経営の研修講師を無料で派遣します。

「ワーク・ライフ・バランス」「イクボス」「育休を取得しやすい環境整備」「若手と話しやすい職場の雰囲気づくり」等、皆様の職場で取り組みたいテーマで「イクボス式経営」の職場づくりを支援します。

事業所の研修に、ぜひご利用ください。

【対象】

県内に事業所のある企業・団体等

※参加人数は1社あたり10名程度から(少人数の場合は応相談)

【市町村の皆様へ】

市町村の事業として連携して進めることも可能です。

まずはご相談ください。

イクボス講座実践編

お問合せ　福島県男女共生センター事業課　TEL:0243-23-8304(事業課直通)

Quiz ふくしまジェンダークイズ

Q.「この数字はなぁに?」の答え

…… A.令和6年度公立学校における福島県の女性の校長・教頭の割合

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		計
	校長	教頭	校長	教頭	校長	教頭	校長	教頭	
福島県	13.8%	20.2%	5.7%	8.0%	7.1%	8.3%	23.5%	33.3%	13.5%
全国	28.4%	32.9%	12.2%	20.2%	12.0%	15.9%	32.3%	37.8%	24.9%

(文部科学省 学校基本調査)

アンケートにご協力ください。

広報誌「未来館NEWS」では、よりよい紙面づくりに向けアンケートを実施しています。ご意見、ご感想、取り上げてほしいテーマなど、Googleフォームにて受け付けております。

アンケートはこちらから→

イラストレーターico.みんぱいさんねぇ

民芸さんNEO

「かんたんに分けられないよね」

by ico.

表紙イラスト&4コマ漫画作者

ico.(いこ)　イラストレーター　防災士(福島市防災士の会 会員)

PROFILE

1985年宮城県名取市生まれ、福島県福島市在住。

雑誌の挿絵や企業広告をメインに、自治体の観光PRのデザインやイラストも手掛ける。福島市防災士の会会員。防災啓発をイラストで伝える。

講演や問い合わせはHPへ

http://icollection.me/

◎表紙協力:
「就労支援A型事業所福島ケアサービス」

当センターに対するご意見・ご質問等がありましたら、下記までお問い合わせください。

未来館news VOL.93 2026 spring

(公財)福島県青少年育成・男女共生推進機構
福島県男女共生センター(女と男の未来館)
〒964-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1
TEL:0243-23-8301(代)　FAX:0243-23-8312
https://www.f-miraikan.or.jp
X　Instagram